〈証言〉でつづる人間ブルース・リー
◇その格闘技と心の遍歴を追う

JAPAN

第3章

シアトルにて道場開き 振藩国術館(ジュン・ファン グンフークラブ)を開設！

■写真・リポート
上野　彰（本誌・北米通信員）

◀エディソン高校でブルースと知り合ったジェームス・デミル氏は、まさしくシアトル時代からの"グンフー仲間"であり、またブルースの初期の弟子の一人だ。今回の取材では当時の昔話をいろいろ聞かせてくれた

◀3番目の練習場——というよりも彼が初めて設置したグンフー（功夫）道場。自分の名前からとって振藩国術館（ジュン・ファン・グンフークラブ）と名づけた。ちなみに"ジュン・ファン"とは"振藩"の広東語読みだ。また、この時になって初めて彼は会費を徴集した。1960〜61年の頃だったという……

学友たちにグンフー（功夫）を教える

1959年、再びサンフランシスコの地を踏んだブルースは、同地に短期間いた後、シアトルに移り住んだ。

香港の高校を中退し、ほとんど無一文で渡米してきたブルースである。ろくな仕事があるわけでもない。結局、シアトル市内の大きな中国レストランにパスボーイ（皿洗い）として住み込んだ。オーナーのルビー・チョウ夫人は、ブルースの両親とは知り合いだったのだ。

新天地アメリカでブルースは、ともかくこれまで散々だった学業をやり直すことを決意した。取りあえず、高校の卒業資格を取らねばならない……。

うまい具合に、中国レストランから半マイル程のところにエディソン・テクニカル高校があった。それは、軍役やその他の理由で高校に行けなかったり、あるいは卒業できなかった大人たちを受け入れる学校であった。

このエディソン高校でブルースと知り合ったのが、軍隊帰りのジェームス・デミルである。今回は、同氏の思い出話を中心に紹介しよう。

彼は当時のことをこう語る。

「1959年の後期だったよ。ブルースは校内でちょっとしたグンフー（功夫）のデモンストレーションをやっていた。そこで挑戦してみたのさ。なにしろ自分は軍隊内じゃボクシングのチャンピオンだったから、まったく負ける気はしなかったのさ。ところが打ち出した腕を見事にトラップされ、次の瞬間には"グワン！"さ」

こんな調子で、やがてジェームス・デミルのような腕自慢や物好きたちが集まって、ブルースにグンフーを習うようになった。最初の稽古場はチョウ夫人のレストランからほんの1〜2ブロックの所にあった"ブルー・クロス保険会社"の駐車場である。

▼ジェームス・デミル氏のような腕自慢や物好きたちにグンフーを教え始めたのがそもそもの始まりだが、写真は当時練習していたブルー・クロス保険会社の駐車場（1階部分）。つまりブルースにとって"最初"の練習場だ。まだ会の正式名称もなく、会費ももちろんなかった